

平成24年度 第3回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成24年11月21日（水） 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 堀修司部会長、小林靖副部会長、菊池英明委員、宇野雅樹委員、池添博彦委員、
稲葉秀一専門委員、菅野明美専門委員、森茂樹専門委員、若田部紀代子専門委員

4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 平成23年度保健事業について
- (3) 帯広市夜間急病センター再整備に係る取組み状況について
- (4) その他

5. 会議内容

○事務局

お晩でございます。ご案内差し上げておりました時刻より少し早いのですが、皆様お揃いですので、ただ今から、平成24年度第3回地域医療推進部会を開会させていただきます。本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員9名全員のご出席をいただいておりますので、過半数の委員の出席をもちまして、本日の部会が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、これより議事の進行につきましては、堀部会長にお願いいたします。

○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。最初に前回会議の議事録の確認でございます。この議事録は、この場でご確認いただいたあと、公開される予定となっております。議事録につきましては、ご質問やご意見があれば、お願いします。

【質問・意見なし】

○部会長

なければ、議事録は了承されたものといたします。次に、「平成23年度保健事業について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、「平成23年度保健事業について」説明させていただきます。

お手元の資料として、資料1「平成23年度保健事業」、資料2「平成23年度健康推進課決算の概要」、資料3「帯広市夜間急病センター再整備に係る取組み状況について」、後ほどその他で説明させていただきます情報提供の資料として「平成24年度今冬のインフルエンザ総合対策について」と「第二期けんこう帯広21（素案）概要版」を用意させていただいております。

資料1、保健福祉センター利用状況の事業等の利用状況について3カ年の推移を見ますと、利用者は増加傾向にあります。

子育て支援総合センター利用件数ですが、平成22年度は、関係機関との連携・相談件数もカウントしておりますが、平成23年度は、市民からの相談のみをカウントしておりますことから、平成22年度と比べて2,600件ほど減少しております。

予防接種の実施状況では、平成22年度と23年度の比較では、ポリオは300人ほど減少しておりますが、生ワクチンの副反応や、不活化ワクチンへの移行について報道されたことが影響しているものと思われます。

インフルエンザ予防接種の状況について、平成22年度は、新型インフルエンザワクチンと季節性の混合ワクチンに対して低所得者への接種費用の助成事業があり、平成23年度は、通常の季節性ワクチンの中3、高3と、65歳以上の高齢者に対しての接種事業を実施しております。

健康教育の実施状況では、回数、人数ともに減少しております。1,500人減少の要因としては、老人クラブ・老人クラブ連合会432人、企業は、JAかわにし高齢者感謝の集い202人などの団体依頼の減少が大きく影響しているものと考えられます。

健康づくり講座では、23年度より講座や教室を再編し、従来の健康プラン・食事バランス・メタボを新規事業の健康づくり教室・糖尿病予防講座に再編・拡充いたしております。すこやかロード・ウォーキング教室については、体スッキリに統合しております。

検診の実施状況の大腸がん検診と肝炎健診は、平成23年度より開始した無料クーポン事業の影響により受診者数が増加しております。大腸がんは施設・集団合わせて前年度より1,575人増、肝炎検査は741人増、それ以外の検診については、横ばいとなっております。

自殺対策では、平成10年以降、年間自殺者数が3万人を超えていることから、平成21年に国で地域自殺対策緊急強化基金を造成し、帯広市でもこの基金を活用し、平成21年度から自殺対策に取組み、リーフレットを広報紙に織り込みました。平成22年度からは一般市民向けの講演会を開始し、平成23年度からは自殺対策にかかる関係職種や関係機関において、相談者を適切な相談窓口につなげられる地域資源を知り、情報を共有するための「多分野合同研修会」を開催しております。

救急医療体制に関する実施状況は、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者の発生に対処するために、夜間急病センター運営事業や医療機関の協力を得て、在宅当番運営事業や二次救急医療体制の確立をしております。

資料2、平成23年度の健康推進課決算の概要は、総事業費は8億4,406万円となっております。

予防費の4億9,074万円の内訳は、がん検診や各種健康診査、予防接種、インフルエンザ予防などの感染症予防となっております。

夜間急病診療費は2億1,033万円で、内訳は夜間急病センターの管理運営費や、在宅当番医・二次救急医療などの救急医療対策費です。

保健衛生総務費は9,933万円で内訳は、高等看護学院の分担金、保健衛生推進費、公衆浴場対策費等となっております。

保健福祉センター費は4,365万円で、保健福祉センターの管理運営費となっております。説明は以上でございます。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○委員

予防費の中の健康相談費ですが、内訳として精神科医、心理相談員による相談となっております

が、自殺対策講演会やストレスと心の健康講座も健康相談費と関係するのでしょうか。

○事務局

健康相談費は相談員の人件費を計上しておりますので、相談件数は関係しております。

○委員

自殺対策講演会やストレスと心の健康講座は別に計上しているのか、それとも健康相談費に含まれるのでしょうか。

○事務局

自殺対策については、保健衛生費の総務費の中に含まれておりますので、健康相談費は相談員の人件費となっております。

○委員

健康相談は、定期的に日時を決めて開催しているのですね。

○事務局

はい。例えば、年に数回日程を定めて公開し、精神科の医療機関の方や心理カウンセラーに、保健福祉センターに来ていただいて、ストレス、メンタルヘルスのご相談に対応するような事業を取り組んでおります。保健師が多い職場ですので電話相談や来訪相談に対応しているケースもございます。

○部会長

よろしいでしょうか。他になければ質疑を終了いたします。

次に「帯広市夜間急病センター再整備に係る取組み状況について」説明願います。

○事務局

前回の第2回地域医療推進部会にて基本設計等の報告をさせていただいておりますが、その後の経過として取組み状況を本日報告させていただきます。

今後の主な予定と致しましては、平成25年1月9日に帯広市議会の厚生委員会が開催されますが、そこで実施設計についての質疑があります。

現在、基本設計が終了し、実施設計に入っておりますが、年内をめどに夜間急病センターの実施設計を完成させ、年明けの厚生委員会で報告をさせていただくような形になります。その後2月に第4回地域医療推進部会を開催予定としておりますが、その時に厚生委員会で報告した実施設計について報告をさせていただきます。

現在、実施設計を進めていると共に、実施設計に係る建築費、設備備品についての予算編成作業を行っております。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問、ご意見ございますか。

【質問・意見なし】

○部会長

なければ、その他について事務局から説明願います。

○事務局

先ほど説明の中で、自殺対策費を総務費とお答えしましたが、予防費の誤りでした。大変申し訳ございません。

続きまして、その他としまして「平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について」です。

今年度はまだ流行時期になっておりませんが、先ほど厚生省から帯広保健所を通じまして、総合対策について情報提供がありましたので、その資料をお配りしております。

今年の季節性インフルエンザのウイルスは、平成21年に流行した新型インフルエンザと同じA/H1N1亜型と香港型とB型の3つの種類の型が流行の可能性があるということです。

具体的な対策については例年通りの対策となっておりますが、ワクチンの状況やインフルエンザの薬の関係について、国で取りまとめた供給量が記載されております。

インフルエンザの流行は、昨年度は1月末から注意報、2月から警報が発令されておりますので、今後流行する可能性があると思われま

○事務局

帯広市には「けんこう帯広21」という健康増進計画がありますが、審議会から委任を受けて、本日同時開催しております健康づくり支援部会に審議が委ねられておりますが、市民の健康と医療に関連がありますので、参考までに皆様に「【仮称】第二期けんこう帯広21（素案）概要版」の資料を配布させていただきました。

平成14年から第1期の「けんこう帯広21」の健康増進計画を推進し、生活習慣病の発症予防等、様々な取り組みを行ってまいりましたが、糖尿病の重症化等大きな課題を踏まえ、国の取り組み方針に合わせ平成25年度から10年間の第2期事業計画を作成するものです。

計画は第5章で構成されておりますが、計画の目指す所としましては、第二章の計画の基本的な考え方に示しております。

市民一人ひとりが主体的に生活の質の向上に努め、健康づくりを進める社会環境を整備することにより、健康寿命を延ばし健やかで心豊かに生活できるまちづくりを目指すことを基本理念としております。市民が自らに健康意識を持って取り組んでいただくことと、行政などが健康について考え、取り組める環境体制を整備するというのがこの計画の基本的な考え方としています。

第三章は現在の帯広市民の健康課題ですが、国民健康保険で見ますと、医療費の中の42.5%が生活習慣病に由来するもので、大変大きな割合を示しております。

生活習慣病の中でも、特に重視していかなければならない糖尿病は、HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の数値が、北海道平均と比べても、大変高い数値を示しております。

心の健康につきましても、自殺が10万人あたりの比率が高いなどの健康課題を示しております。

第4章、生涯を通じた健康づくりについては2つの柱で作成しております。

1つ目の柱としての重点課題は、糖尿病対策、がん対策、こころの健康対策の3項目を取り上げ、国が示す基本的な方向に基づく数値目標などを踏まえ帯広市の計画目標値を定めている他、市民一

人ひとりが取組んでいただくために、本人や家族の取組みを具体的に提案しております。

また、働き盛りの世代の取組みも大事ですので、地域・関係機関などの取組について、「私たちは」という表現で記載させていただいております。

また行政が市民の皆様に健康づくりについて考え、取組める環境整備を行うために、市の取組みを載せております。

もう1つの柱として、人生の各段階に応じて課題を重視した取組みとして「ライフステージにおける取組と目標」を示しております。

ライフステージは、1. 妊娠・出産期・乳幼児期、2. 学齢期、働きざかり世代の3. 青年期、壮年期、中年期、4. 高齢期と4つのステージに分け、個々に目標を設け、ライフステージに応じた取組を行っていきます。

多忙により病院で受診できない、健康診査に行けないなどの働き盛り世代が重要な課題ですが、将来へのリスクに繋がるような様々な健康課題に対応していくことが、10年間の取組の中で重要であると考え計画作りを進めているところです。

第5章の計画の推進ですが、市民と地域、事業所、行政との3者が協働して健康づくりに取組むと同時に、推進体制としては「けんこう帯広21推進会議」等をつくり、計画の進捗の把握などに努めていくこととしております。

以上が、現在策定作業を進めております、第二期「けんこう帯広21」の素案の概要でございます。

○部会長

健康づくりについては、別に委員会があり、そちらで討議されております。

インフルエンザに関して何かございますか。

○委員

現在は流行しておりませんが、感染する場所は、大部分は保育所、幼稚園、学校ですが、その対策がなされていないのが現状です。保育所は閉鎖しませんので、姉妹、兄弟である小学生に感染し、更に拡大していきます。

近郊から通学している大正・川西・大空地区などの保育所、小学校、学校が一致している地域は、だいたい同時期に地域的に流行する。それ以外の帯広市内の保育所、幼稚園など広範囲から集まるような地域は、全域的に広がっていきますので、保育所、幼稚園の対策が必要です。小・中学校では、患者がある一定の人数になれば学級・学校閉鎖になる取り決めがあります。

○部会長

保育所、幼稚園は、閉鎖となれば親も仕事を休まなくてはなりませんので難しいですよ。

○委員

数年前に、鳥インフルエンザが流行しましたが、ワクチンは季節性インフルエンザとは別ですか。

通常接種しているものが季節性インフルエンザのワクチンならば、鳥インフルエンザが流行すれば、そちらのワクチンも接種しなければならないのですか。

○委員

強毒性のH5N1型のインフルエンザが騒がれたのが、今から4年ほど前でしたが、前回の新型インフ

ルH5N1型ではなかったですね。

○部会長

これは一般的な季節性インフルエンザと同じ扱いになりました。
よろしいでしょうか。他になければその他で事務局から何かありますか。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程ですが、例年は2月中旬に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただきます。夜間急病センターの実施設計もありますので、次回にはそちらの報告もさせていただきたいと思えます。

具体的には堀部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

○部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。
本日は、これで閉会といたします。
お疲れ様でした。